



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

パネルディスカッション

海外大学院を目指した動機・合格の決め手

木原盾, 児玉真希, 谷川洋介, 吉永宏佑, 小野雅裕, 樊星



BROWN



RICE



STANFORD



今日の内容

- 海外大学院を目指した動機・合格の決め手 (樊星)
- 出願準備 (木原・谷川)
- 海外大学院の良いところ、悪いところ (児玉)

私が話すこと

- 海外を目指した動機
- ためらいはありました？
- 自分の強みは？弱みは？

自分の話 (説明会ページのコピー)

- 2017年3月、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻を卒業。2017年9月より、Harvard University, Department of Physics, Ph. D. 課程に進学。専門は、experimental fundamental physics。現在はGabrielse研究室にて、electron and positron g-2測定実験を行っている。

海外を目指した一番の動機

樊 行きたい研究室、やりたい研究があった

! 児玉 経済的に楽になるから

谷川 最先端の研究拠点で研究をしてみたかった

! 木原 日本に専門分野に近い研究をしている先生・院生が極めて少なく、米か欧州に出た方が良いと判断した

! 吉永 世界から一流の人たちが集まる環境に身を置いて、真の実力をつける自分磨きをしたかった

研究？経済的に楽？

海外を目指したさまざまな動機 (ピックアップ)

樊	もっと現場にいたかった
!	児玉 最先端の研究がアメリカでされているから
!	谷川 生活費のサポートで経済的に自立できる 教育者・メンターとしてのトレーニング (TA, etc.)
木原	日本では社会学の博士号取得後に民間で働くことが極めて難しいのに対して、米では比較的容易で、アカデミアに残れなかった場合でもなんとかなるかもしれないこと
吉永	お金もらえる

ためらいはありましたか？

樊	落ちるのが嫌だった
児玉	日本で博士号が取れる自信がなかったので、研究を続けているためには必要なステップだと思っていた。
谷川	合格できないのではないかという不安
! 木原	日本の同期と比較して数年博士号取得が遅れそうなこと(修士課程を修了後の留学なので)
吉永	わざわざ留学に行かなくても幸せな人生を歩めたのかもしれない

自分の強みは何でしたか？

樊	事前にアメリカに行き教授を訪問しました
児玉	帰国子女なので英語には少し自信ありました
谷川	幅広く勉強をしてきたため、分野融合的な専攻分野への素養が整っていた
木原	英語のテストが得意だった。テストのスコアだけだと、学部から米に留学している人や、ネイティブと大きくは変わらなかった
吉永	推薦状で研究能力をアピールできた

研究能力？英語？

自分の弱みは何でしたか？

樊	英語が下手。直接会いに行き研究成果を話した
児玉	話すのは得意なのですが、ライティングが得意ではないので常に精進。
谷川	研究実績が弱く、パブリケーションがない。様々なリサーチインターンに参加していた経験を、応募書類上にうまく活かせるように考えた。
木原	業績が少なかった(査読論文がなかった)
吉永	論文がまだなかった。今の同級生はほぼ全員何かしらの論文の著者になっている。きっと推薦状で研究能力をsupplementできた。